

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行 (財)第五福竜丸平和協会 〒136 東京都江東区 夢の島3-2 都立第五福竜丸展示館内 電話 03-3521-8494

新年おめでとうございます。第五福竜丸も原水爆のない平和な未来へ新しい気持ちで出航いたします。

一九九一年が、核兵器廃絶への一層大きな年となるため、ともに力をあわせてまいりたいと存じます。

昨年一年間、第五福竜丸展示館には、およそ二十万名の人々が訪れました。小学校の社会科学の見学や、中学校の修学旅行がことのほか多く、六百校以上にのぼりました。先生の熱心な努力が感じられ、見学前の学習もさかんです。平和の教育にとってもっとも大切なことは、真実を伝える実物そのものを、自らの目で見、触れ、体験し、思い、考えることです。私たちは、展示館開設以来、そのことを願う重点において来ましたが、今年はさらなる確信を持って進めてまいりたいと思います。

幸い今年も、永年の願いが実現して、一月十日から東京都の手によって館内の大規模な修理工事が行なわれます。三月八日まで約二ヶ月間は、開館以来初めて長期の休館になります。

新年にあたって

第五福竜丸平和協会副会長 本多喜美

新年おめでとうございます。第五福竜丸も原水爆のない平和な未来へ新しい気持ちで出航いたします。

一九九一年が、核兵器廃絶への一層大きな年となるため、ともに力をあわせてまいりたいと存じます。

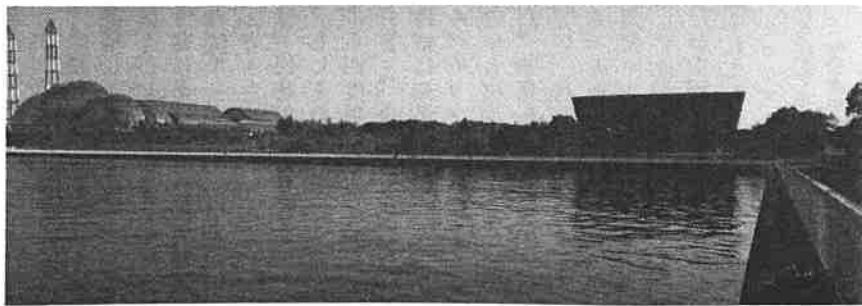
昨年一年間、第五福竜丸展示館には、およそ二十万名の人々が訪れました。小学校の社会科学の見学や、中学校の修学旅行がことのほか多く、六百校以上にのぼりました。先生の熱心な努力が感じられ、見学前の学習もさかんです。平和の教育にとってもっとも大切なことは、真実を伝える実物そのものを、自らの目で見、触れ、体験し、思い、考えることです。私たちは、展示館開設以来、そのことを願う重点において来ましたが、今年はさらなる確信を持って進めてまいりたいと思います。

幸い今年も、永年の願いが実現して、一月十日から東京都の手によって館内の大規模な修理工事が行なわれます。三月八日まで約二ヶ月間は、開館以来初めて長期の休館になります。

皆様のご指導、ご協力を仰ぎ、力をあわせて洋々たる未来への航海を続けたいと思います。

なにとぞ皆様方のご援助の程よろしくお願いいたします。

かつて船が廃棄されていたところから展示館を望む。右に展示館、左に夢の島熱帯植物館。遠くに清掃工場の煙突。この海岸も来年には、マリーナが建設される。



初冬の一日、現代俳句協会の第五福竜丸吟行会

浅野 道風

十一月十一日、初冬の日曜日。東京都現代俳句協会の吟行会が行なわれ、所属の俳人六十六名が展示館に集った。

この会の吟行俳句会は年間に数回行なわれており春秋二回は大吟行会になっている。福竜丸見学吟行俳句会の話を持ち出したのは一年以上も前のことで、決定をみたのが四月の末であった。

はたして何人の方が参加してくださることかと当日までは心配の種であったが、幸いにして好天に恵まれて出足は良く、胸をなでお



船を前に合唱する谷原小学校の生徒たち

ろしたものである。受付を展示館入口に設けたが、一時は行列ができて、俳句とは関係のない方が四人も記帳するという一幕もあった。参加者の大部分の方が新聞やテレビで第五福竜丸のことは知って、はいたが実物を見るのは初めて、これを俳句の材料にするとは、と驚きの眼をキラキラさせているのが私に伝わってきた。

船というので海上に繫留されているものとはばかり思っていたが、このような立派な建物の中にあるとは知らなかった、良いところを

福竜丸にわたしたちの歌を

暖冬の十二月。一万名をこえる人々が展示館を訪れ、小中学校の見学も九十校にのぼりました。

練馬区の谷原小学校は、毎年の社会科学見学に訪れますが、今年も年末の二十一日に四年生六十五名が来館。説明を聞いたあと、先生が持参したテープの伴奏にあわせて、広島の歌を合唱しました。

第五福竜丸に聞かせるんだと一生懸命に練習したとかで、「広島のある国でしなければならぬこ

紹介して下さった、別の仲間といま一度見にくると感謝されたのはちょっととまどいもした。

近くの文化センターでの俳句会は、一人二句提出で一二三句。これをコピーし、全員で選句発表した。好評の作品は次のものである。

- 船の瘡なぞればこきと鳴る冬日 小菅 久芳
- ふたたびは水漬かぬ錨高音 矢島三栄代
- 船霊や言葉失う冬かもめ 横溝 明子
- 横たわる船は語りべ草は実に 高橋 ふじ
- 冬迫る福竜丸の出口なし 山本 敏倅

とは、残るいくさの火種を消すことだろう」ととさわやかで美しい声が館内に広がりました。

見学に来る前にスライド「太陽が落ちた」を見て、質問もいっぱいに用意するなど、先生の熱心な指導と子どもたちの生き生きとした姿が印象的でした。

年末の十二月二十八日、協会の第九八回理事会が学士会館で開かれました。理事全員と監事が出席し、前回に引き続き、協会の運営と体制について協議しました。

- 竜骨の哀しみ錆びて冬に入る 有富 光英
 - 人間が降らす死の灰ピラカンサ 栗原 節子
 - 立冬の指紋の乾く日誌表 浅野 道風
 - 風化つづく船在る十一月の国家 花房治美子
 - 福竜丸の黙霜月の館に満つ 林 信江
 - 冬迎ふ漁船の過去をむきだしに 山口ひさ子
 - 館内冷え腕組む被爆のゴム合羽 石川 貞夫
 - 波千羽翔たせ「福竜」の冷えま 森 白樹
 - 遺品みな海を近くに仏桑華 北迫 正男
 - 羊腸の船史に見入る小六月 田中 忠子
 - 冬日射す或る廃船の鉾の列 川隅 庸吉
 - ビキニ漁労誌炎とコスモスの枯れぎわに 石川 貞夫
 - 草は実に海を見すへる久保山碑 松崎早智子
 - 被爆船しどろもどろに鳥渡る 松井 国央
 - 末枯れがおんおんと被爆船スクリユ 大坪 重治
- (俳人)

私を平和学へ駆り立てるもの

岡 本 三 夫

私は栃木県の烏山という田舎町で生れ育った。そのおかげで、爆撃は知らずに敗戦を迎えることができたが、敗戦の前年に長兄が死に、一年後には母が、続いて父が病没した。「栄養失調死」といった方が正確かもしれない。十分な食糧と医薬品があれば死ななかつたらう。こういう境遇にあった私は、中・高校時代を通じて、納豆売り、新聞配達、行商、牛乳配達、家庭教師など、いろんな仕事をして生活費を稼がなければならなかった。暗黙の貧乏人差別もいやというほど味わった。気がすさび、暗く、辛い少年時代だった。

時は流れて、一九六八年五月十八日、「苦学留学」から八年ぶりに帰国して間もない私は、かねてより知合いの女性と結婚した。そして広島へやって来た。広島訪問以外にはこれという当てもなかった。駅の案内所で紹介してもらった旅館に着いたのは宵の口で、平和公園へは翌朝早く起きて行った。

聖地に立ったという感動が全身を貫いた。妻は密かに泣いていた。原爆死した私と同年代だった無数の少女を思うと、涙がとめどなくこみあげてきた。もはや浮ついたハニムーン気分が宮島へ行く気はしなかった。

平和学に打込むようになったのは、それから数年後のことである。原点は少年時代の悲惨な記憶であり、広島訪問の衝撃だった。丁度、ベトナム戦争が泥沼化しつつある時代であり、新聞やテレビで見る子供達の悲惨な姿は決して他人ごとではなかった。もはや本来の専門である哲学や神学の研究を従来通りの方法で続けて行く気にはなれなかった。

平和が学問研究の対象でありうることを教えてくれたのは、ドイツ留学時代の恩師であるゲオルク・ピヒト先生だった。国際政治学、国際関係論、経済学、社会心理学などの分野の本や論文も手当たり次第に読んだ。ヒロシマとナガサキ

についても初めて系統的に学ぶことになった。ヨハン・ガルトウングというノルウェーの平和研究者の論文には特に啓発された。

原爆と原爆の不可分性も年と共に明きらかとなり、「事故は絶対ない」といい張る原爆推進論者の主張も怪しくなってきた。スリーマイル島原発事故は、伊方原発裁判で原告側がシミュレートした事故のシナリオとほとんど同じ経過をたどった。が、その七年後に起きたチェルノブイリ原発事故は私の危惧を遥かに超える悲劇をもたらした。

ピキニの水爆実験も、設計者の予想を遥かに超えたものだった。被爆したのは福竜丸だけではなかった。高知港からピキニ海域に出航していたマグロ漁船の乗組員が、数多く被爆した。放射能禍は今なお太平洋の南と北で多くの人を苦しめている。

カナダのローザリー・パーテル博士は、チェルノブイリ以前に、核実験、核産業にまつわる世界の被爆者数をすでに約千六百万人と推定していた。ほとんど信じ難い数字である。チェルノブイリ以後は一体何千万人に達したのであろうか。核を弄ぶ人間の罪業は悪魔的だ

としかいいようがない。軍事核と産業核は不可分である。原爆がグリーンで、安くて、安全なエネルギーだというのは神話にすぎない。むしろ原爆は放射能で地球を汚染する、高くて、危険なエネルギーだというのが真実である。

広島、長崎、ピキニと、日本人は三度被爆した。幸い、原爆の過酷事故はまだ起きていないが、不気味な予兆はある。原爆開発に最も熱心な国の一つである日本が、核エネルギーという幻想から目覚めるのは、何時のことになるのだろうか。もしそれが、深刻な原爆事故による四度目の被爆体験後のことだとしたら、余りにも恐ろしい。

冷戦終結は無条件で嬉しい。かつてゴルバチョフは今世紀末までに世界中から核兵器を一扫したいといった。原爆も是非その中に含めてほしい。代替エネルギーは他にいくらでもある。私達大人は、「負の遺産」を絶対に私達の子や孫に残してはならない。

平凡だが幸福だった家庭を戦争で破壊されてしまった少年時代の記憶と、ヒロシマ・ナガサキの衝撃が、今日も私を平和学へと駆り立てる。(日本平和学会会長・広島修道大学教授)

「唯一の被爆国」とは？

小 松 健 一

懸案だった米ソ戦略兵器削減交渉が、今年二月に予定されている米ソ首脳会談で調印の運びとなった。調印以来十六年間棚ざらした米ソ地下核実験制限条約も昨年暮れ、両国間の批准書交換で正式に発効した。八七年の中距離核戦力全廃条約調印ではのかに見えたり米ソの歩み寄り、劇的な東欧諸国の変動を背景に、急テンポで進展、核競争時代は終わろうとしている。

昨年夏まで約二年間、広島で原爆報道に携った一人として、とても喜ばしい情勢なのだが、半面、やりきれない気持ちでもある。「唯一の被爆国」、「人類史上最初の核惨劇」八月六日の原爆忌に広島市長が読み上げる平和宣言には、こんな表現が盛り込まれる。国連軍縮特別総会や、広島、長崎両市が主催する世界平和連帯都市市長会議などでも、この表現が核廃絶を訴える拠り所になっている。し

かし、「唯一の被爆国」が単なる外交上の「看板」でしかなかったのでは、そして核軍縮に貢献し得なかったのでは、との思いが募るのである。

一例をあげよう。核搭載疑惑の米艦船が広島県・呉港にも寄港しているとして、「非核三原則の空洞化」を指摘する市民団体が、実情調査など日本政府への働きかけを広島市に要望したことがあった。これに対し、広島市は「呉港は呉市の問題」と、珍妙な返答で要望を突っぱねた。「唯一の被爆国」を標榜するにはあまりにお粗末な対応だ。

「唯一の被爆国」という場合、それは私たち日本人の意識を喚起させるのでなければ、外に向けての核廃絶の訴えは意味をなさない。そうしたプロセスを経なかったことが、日本の平和運動のエネルギーを削いでしまったと、思うのである。

昨年の被爆四十五周年で被爆者援護法制定を求める被爆者の運動は大いに高まったが、「被爆者だけに国家補償を講じることは、他の被災者との均衡を欠く」との政府見解が壁となって、法制定は困難な状況だ。であるなら私は問いたい。なぜ被爆者を含め被災者すべてに国家補償しないのか、と。

西欧には被災者への国家補償制度を設けている国が多い。国家補償とは、金銭的な補償である以上に、戦争を行ったことについて国が国民に謝罪し、二度と悲劇は繰り返さない、との誓いが込められている。軍部という狂気が駆り立てた戦争は、戦後、「一億総ざんげ」で戦争責任を棚上げにしてしまった。被爆者援護法も戦争責任と切り離そうとするから、「一般被災者との均衡論」という矛盾にぶち当たる。ましてや、今、大きな社会問題になっている在韓国・朝鮮人被爆者への補償となると、戦争責任は避けて通れまい。

こんなこともあった。八九年の平和宣言草案で、アジア諸国に対する戦争責任を内容とする文言があったが、あっさり削除された。その一方で、アジア・太平洋地域

の非核化をうたい上げる。一体、誰が非核化のリーダーシップを取ろうというのだろうか。「唯一の被爆国」から戦争を告発する姿勢がなければ、軍縮に貢献することはできないし、ヒロシマ、ナガサキは昔話になってしまう。

三年前、核問題の取材で米国を訪れた際、非常に驚いたことがある。ネバダ核実験場の風下住民らが定期的に会報を発行しているのだが、その内容の多くが政府側の非公開文書にもとづいたもので、放射能漏れ事故の事例や、核実験の目的などを細く、スクープ、核を告発する執念を見た。残念ながらわが国の平和運動には、そんなしびとさがない。終戦後、平和運動が東西冷戦の影に引きずられたことも要因だが、「唯一の被爆国」を自問自答することなく、核兵器廃絶を訴え続けた行政側、それに私たちの意識の問題であろう。

「今年はパールハーバー(真珠湾)から五十年。米国のマスコミは大きく取り上げてくるだろうな。日本の原爆報道が押し切られないだろうか」。ある被爆者のつぶやきが心に重くのしかかっている。(毎日新聞大阪本社社会部)